

「常陸那珂港」で

開港10周年の記念式典

東海村とひたちなか市の地先にある「常陸那珂港」の開港10周年を記念する式典が10月26日、東京電力㈱常陸那珂火力発電所の地域共生施設「ふれあい広場」(体育館)で開催されました。茨城県と常陸那珂港振興協会会長、本間源基(みなま げんき)ひたちなか市長、副会長、村上村長(むらかみ なが)が主催するこの式典には、国土交通省や港を利用する企業団体等から多くの関係者が参列——あいさつに立った本間市長は、「常陸那珂港は今、東日本と世界をつなぐ物流拠点として大きな役割を担いつつある。港の周辺・後背地には大手・関連企業も多数進出し、雇用の機会も拡大して力がつき、花を結ぼうとしている」と話し、「常陸那珂港」を含む「ひたちなか地区」が着実な発展を遂げていることを強調、アピールしました。

「常陸那珂港」は、北関東の新たな物流拠点という機能に加え、首都圏の電力需要に対応するエネルギー基地を担う重要港湾として、平成元年7月に着工し、平成10年12月に「北埠頭内貿(うちくわい)地区」、平成12年4月には「北埠頭外貿(ぐわい)地区(外国貿易)コンテナターミナル」が供用開始。平成13年2月から「中央埠頭内貿地区」の海上工事が始められ、現在は複合輸送用大型

朗読ボランティア「こだま」に厚生労働大臣表彰



(左から)小山美津子さん、市毛せつ子さん、村上村長、加藤哲子さん、佐藤キヌ工さん

東海村朗読ボランティア「こだま」がその活動を通して共に支え合う地域社会づくりに大きく貢献したとして、舛添要一・厚生労働大臣から9月21日付けで表彰——10月15日には会長の市毛せつ子

さんほか3人の会員が村上村長を訪ね、喜びの報告を行いました。「こだま」は、昭和56年4月の発足以来、村内の視覚障がい者への情報提供を目的として、東海村広報紙「広報とうかい」や書籍の音訳テープ制作・配布に務めてきた14人のグループ。視覚障がい者が外出するきっかけになればと始められた「朗読のつどい」は、今年で26回目の開催を迎えたほか、近年は福祉施設を訪問しての朗読なども行い、高齢者・障がい者との交流に深くかかわってきました。今回の表彰を受け、市毛さんに感想を伺ったところ、「音訳は地道な活動ではあるけれども、(受賞できたのは)この27年間を支えてこられた多くの先輩会員の功績が大きかった結果であり、これからも長く続けていきたいと思ひます」と言葉少なながらも、期待高まる決意を表してくれました。



「こだま」による活動の様子。写真は、10月22日に中丸コミュニティセンターで開催の第26回「朗読のつどい」。視覚障がい者を招き、短編小説や落語の朗読と、昼食を囲んでの交流会を行いました。

日々の積極的な防犯活動に功労者表彰

10月10日、第30回「地域安全・暴力追放茨城県民大会」において、ひたちなか西地区防犯連絡員協議会東海中学校分会長の川松文夫さんが茨城県警察本部長と(財)茨城県防犯協会理事長から「地域安全功労者表彰」を受けました。川松さんは警察と協力し東海駅を中心に自転車盗難防止に努めるなど年間を通して防犯パトロールに尽力。また、同分会の木村喜久雄さん、根本哲成さん、同協議会東海南中学校分会の根本肅正さんが住民・警察と連携した積極的な防犯活動が認められ「優良防犯連絡員表彰」を受けました。日ごろからの防犯活動、ありがとうございます。



(左から)原田隆明さん(ひたちなか西警察署長)、根本肅正さん、根本哲成さん、木村喜久雄さん、川松文夫さん、村上村長



「常陸那珂港」と「同年齢」10歳の照沼小学校児童(右から西川健太郎くん・奥沼佑菜ちゃん)や、村上村長(左)ほかによって行われた記念のくす玉割り

岸壁の整備が進む中、定期コンテナ・RO-RO(船内にトラック等の車両が出入り可能な構造の貨物船)在来航路としては、内航2航路(北海道四国)と外航5航路(北米・欧州・韓国・中国・極東ロシア)が開設されています。また、ひたちなか市と群馬県高崎市を結ぶ延長150kmの「北関東自動車道(東水戸道路を含む)」の整備と併せては、首都圏における物流の合理的再編や北関東の発展に大きく貢献するものとも期待されています。港の計画総面積752ha埋め立て面積303ha)の中では、外貨2100万トン、内貨500万トンの貨物を取り扱う中核国際港湾として、北埠頭・中央埠頭・南埠頭の3埠頭の完成が急がれているところです。



●楽しさの中に集中力、グラウンド・ゴルフ大会

第9回「介護保険推進全国サミットinとうかいむら」が開催された10月17日、サイドイベント(補助的催し)として、東海村高齢者クラブ連合会が主催する「グラウンドゴルフ サミットカップ」が総合福祉センター「絆」(多目的グラウンド)で開かれました。グラウンド・ゴルフは、そのプレーに高度な技術を必要とせず、誰でも始められるスポーツとして注目されているもの。東海村でも、健康増進の一環として高齢者クラブを中心に楽しまれており、会長を務める川又政美さんは、大会終了後、「100人余りの会員の参加の下、健康と生きがいづくりをモットーに心地よい汗を流すことができた」と感想を聞かせてくれました。



白方地区委員会が主催する第9回「しらかた地区交遊会まつり」が10月11日と12日の両日、白方コミュニティセンターで開かれました。特に開催二日目の12日は、搦きたての餅など食欲誘う“秋の味覚”の販売や写真・絵画等の展示、頭の体操に効くソリティア等のゲーム、白方小学校金管バンド部による演奏など、数々のイベントが多彩に催され、終日の大にぎわい。会長の尾花光雄さんは、会場を埋め尽くすばかりの来場者に、「こんなにも多くの皆さんが地域のことに関心を持ち、来て楽しんでくれてうれしい限りです」と満面に笑みをたたえ、この祭りが一層の地域の活性化に結び付いていくことを願っていました。

●みんな楽しくがキーワード、白方地区祭り



●ニート、引きこもりについてのセミナーを開催

10月26日、「ニート予防セミナー」が「いばらき若者サポートステーション」(NPO法人「すだち」が運営する厚生労働省受託事業・相談窓口)と村との共催により「テクノ交流館リコッティ」で開催されました。「“働こうとしない若者”であるニートは現在の雇用環境が要因。人間関係をつくるのが苦手なので、コツコツと物を作っていきような産業が地域に必要です」と話すのは講師の三輪壽二さん(茨城大学教育学部准教授)。引きこもっているような場合は、「その人の主張や存在を尊重してあげることが必要。個々のペースで徐々に外へ出て行く自信を持たせることが大切です」ともアドバイスしてくれました。

